

ケース調査(平成24年度実績)

地域	新潟市	長岡市	南魚沼市
財団名	公益財団法人 新潟市芸術文化振興財団	公益財団法人 長岡市芸術文化振興財団	公益財団法人 南魚沼市文化スポーツ振興公社
指定管理受託施設	新潟市民芸術文化会館 コンサートホール・劇場・能楽堂・スタジオ多数	長岡リリックホール コンサートホール・シアター・スタジオ多数	南魚沼市民会館 大ホール・小ホール
	新潟市音楽文化会館 ホール・スタジオ多数	長岡市立劇場 大ホール・小ホール・会議室	鈴木牧之記念館
	新潟市歴史博物館		トミオカホワイト美術館
	旧小澤家住宅		図書館 さわらび 今泉博物館 ディスプレイ他、体育施設多数
代表的な施設の特徴	新潟市民芸術文化会館コンサートホール(約1,800席)は、我が国最高レベルのオーケストラ用ホール。東京交響楽団を準フランチャイズとして、年6~7回の定期演奏会を実施。劇場(約900席)は、演劇公演を多数実施。同じ施設内に能楽堂もある。	長岡リリックホールのコンサートホール(約700席)は、県内では極めて珍しい室内楽専用ホール。また、シアター(約450席)も充実した設備で、県内最高の劇場空間である。長岡市立劇場は約1,500席の大ホールを擁するが、さすがに老朽化は否めない。	平成元年に開館した、魚沼で初の1,200席の大ホールは、ワン・スロープで客席が広がり、オケピットも設置可能。小ホールは多用途に使用されている。
ホール運営の特徴	財団プロパー職員として、技術者・企画者から広報部門に至るまで、専門性のあるスタッフを採用して、極めて先進的な運営を行なっている。我が国で初めて平日午後にワンコイン・コンサートを開催して千人近いお客様を集めている他、コンテンポラリー・ダンス・カンパニーNoismを設立・運営するなど、公共ホールの先端を走り続けている。ただ、市域が広く人口も多いことから、訪問型アウトリーチの比重は少ない。	財団プロパー職員の数が少ない上に、高いノウハウを持った人材を採用できていない。また、演劇・音楽双方でアドバイザーを置いているが、ほぼアドバイザーの意向と、市から出向してきている幹部職員(素人の場合が多い)で自主企画が決定し、現場スタッフが経験知を積んでも、自由に企画提案をする環境がない。ただ、市人口規模に比する利用者の人数はかなりの比率に達している。	財団プロパー職員の数が少ない上に、高いノウハウを持った人材を採用できていない。また、スポーツ施設や美術館など、多様な施設を管理運営しているため、人材管理が難しい。南魚沼市からの自主企画財源がほとんどない中で、経費をほとんどかけない形でいくつかの記教育的プログラムを実施するなど、現場スタッフは懸命に努力しているが、状況は厳しい。
自主企画年間公演数	286回	39回	12回
ワークショップ・アウトリーチ数	93回	51回	2回
共催事業公演数	106回	不明	7回(後援を含む)
専属育成団体	ジュニア・オーケストラ128人	活動支援団体はあるが、専属育成団体はない模様	リコーダー教室30人
	ジュニア・コーラス92人		オペラ合唱団15人
	ジュニア邦楽教室32人		ジュニアよさこい教室9人
	こどもミュージカル54人		
入場者数	339, 678人(見学者含む)	324, 547人	90, 092人
一人当たり経費 (総支出額÷年間利用者数)	3, 110円 (新潟市民芸術文化会館のみ)	1, 664円 (指定管理受託施設全体)	財団決算にスポーツ施設も含まれているため、算出できない。

※公益財団法人は、「公益法人の設立許可及び指導監督基準」(平成8.9.20閣議決定)及び「インターネットによる公益法人のディスクロージャーについて」(平成13.8.28公益法人等の指導監督等に関する関係閣僚会議幹事会申合せ)により、事業報告・定款、役員名簿、財務諸表をインターネット上で公表することが義務付けられており、それらの公表資料を元にこの表を作成した。

一方、民間企業が指定管理受託者となっている公立ホールでは、このような情報公開義務がない。